

**生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター板屋
担当圏域レベル）開催報告書**

1 開催日時	令和 8 年 2 月 6 日（月） 9 時 30 分 ～ 11 時 00 分
2 開催場所	浜松市福祉交流センター 4階小ホール
3 参加者	29 名

委員18名、関係機関11名

4 協議の内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 板屋圏域生活支援体制づくり協議体会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>① 前回会議の振り返り 前々回、各地区に分かれてグループワーク「テーマ 地域の身近な困りごと」 ～グループワークからわかったこと～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足が課題となり、既存活動の継続、新規活動の創出が難しい ・新型コロナの流行、メンバーの高齢化がきっかけで活動が縮小している ・関係がつくりづらいマンション住民、認知症の方／認知症の疑いがある方などを 中心に孤立している方が増えている <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◎板屋圏域の強み：社会資源が多いこと ⇒社会資源と連携、協働をしていくことによって、「既存活動の継続の難しさ」「担い手不足」「地域から孤立する人が増えている現状」を変えることができないか ⇒「地域の方には社協、包括、地区社協など、団体の役割・活動が知られていないのでは？」「近隣のサロンや子ども食堂を知らなかった、他にもやっている？」という地域の方からの声がある ⇒圏域内の社会資源を知っていただくために、各地区2つずつ紹介</p> <p>【中央地区・おおぞら高校 浜松キャンパス】 遠鉄鍛冶町ビルに入っている通信制高校。校外に出る機会を増やしたいという思いがある。</p> <p>【中央地区・永ちゃん食堂】 田町の居酒屋で開催される子ども食堂。月一回日曜日に開催される。 イベントを行う際には、お店を貸すことも検討していただける。</p> <p>【駅南地区・サザンクロス商店街】 朝市、マルシェ、おにぎりフェスティバル、プロレスなど様々なイベントが開催。 商店街を活用したイベントも開催できるのではないかな。</p> <p>【駅南地区・浜松ホテル】 今年の4月にスタートした子ども食堂。月一回開催。子どもは無料、大人は300円でホテルの朝食ビュッフェを楽しむことができる。</p> <p>【江東地区・私設図書室あいろく】</p>
----------------	--

小学校1年生から高校生までも利用対象とした私設図書室。
子どもと若者に読んでほしいおすすめの本があれば寄贈を。

【江東地区・te.a.wa.se 食堂】

東部協働センターにて毎月第三日曜日に開催している子ども食堂。ボランティア、食品、寄付を募集している。

【アクト地区・クリエート浜松／中部協働センター】

地域のコミュニティの場になっている。春には手ぬぐいまつり、夏は風鈴まつり、秋はお月見フェスを開催。※中部協働センターの管轄はアクト・中央・北地区

【アクト地区・静岡文化芸術大学】

学食、屋上、図書室に誰でも入れることができる。今後、アクト地区社協の広報誌を学生と一緒に作成できないか相談中。

【NPO 法人 クリエイティブサポートレッツ】

NPO 法人クリエイティブサポートレッツ代表より、法人事業について紹介していただいた。価値観、属性、心情をすり合わせない共助の文化を育むたても、地域の居場所へ。

② 前回会議以降の認知症に関する取り組み

- ・「東小学校 認知症サポーター養成講座」 地域包括支援センター板屋
東小学校4年生を対象に開催した認知症サポーター養成講座について共有

③ 板屋圏域内の社会資源について

- ・「暮らしに活かす健康講座 ときコミ健康塾」 訪問パートナーときわ薬局
住み慣れた場所で、体も心も、そして環境も健やかに過ごすことを目的とした、『地域サロン×社会福祉協議会×地域の専門家』の三者のプロジェクト
- ・「地域は、相談から動き出すー協働センターという“間（あいだ）”の仕事ー」
中部協働センター コミュニティ担当
コミュニティ担当は、地域住民の皆さんの最も身近な「相談窓口」であり、地域の声やニーズを伺いながら、地域活動を「支援」する役割をもつ

4. グループワーク

「圏域内のさまざまな社会資源との連携を考える」をテーマにグループワークを実施し意見交換を行った。

① 社会資源の周知について

「社会資源を知ってもらうには、どんな仕組みづくりが必要か」

② 地域のネットワークづくりについて

「つながっていききたい団体、地域でできそうなこと」

【Aグループ】

① 社会資源の周知について

・江東地区社協では、ブログで地域活動の情報発信をしている。地区社協で子育てサロンを開催しているが、若い世代に活動を知ってもらうには良いツールになっていると思う。

・地域活動については、参加者の口コミでの広まっていくことが多いと思う。

・自治会としては、多くの方に地域防災訓練に参加してほしい。これまで中学生が参加すると、学校に提出する参加証明書に自治会が印を押していたが、今年から印が不要となった。それが理由なのか参加者が減ったように感じられる。協議体スタンプラリーの話が出ていたが、スタンプラリーに参加した方にはお茶等景品を渡すなど、参加者に何か還元されるほうが良いのではないか。

② 地域のネットワークづくりについて

・駅南地区龍禅寺町のシニアクラブは、定例会、カラオケなど毎週活動を行っている。回数が多いため内容に困ることもある。健康塾の話を聞いて、自分たちのシニアクラブにも講師の方に来ていただき、専門的な講座をしてもらいたいと思った。

・自分の町のシニアクラブは、会員40名ほどで参加されるのは10～15名。楽しいと思ってもらえる仕掛けをつくらなければいけない。馬込町では若い世代から高齢者まで誰でも来ることができるイベントを企画。お菓子や食事が出ると参加が増え、顔を知らない方も来る。そのようなイベントから祭りへの参加につながる。

【Bグループ】

① 社会資源の周知について

・駅南地区では、朝のラジオ体操が情報収集・共有の場になっている。また、ボランティアの減少が課題（花の会：1500人→約100人）

・アクト地区は六間道路の南北で地域性が違うため、周知方法の工夫が必要だと思う。野口町シニアクラブは参加者がおよそ10名と少なく、周知や参加が課題。

・中央地区は町内ごとに活動し、地域単位で情報共有している。

・回覧で広報してもあまり成果がないと感じられる。まずは“社協”を知ってもらうところから考えていかなければならないと思う。

② 地域のネットワークづくりについて

・「企画には参加するが運営はやりたくない」という意識がある

・餅つきなどの行事は多世代が集まり、役割分担で参加しやすい。

・シニアクラブ同士のつながりづくりが必要だと思う。

・地区対抗の輪投げ大会など、地域間交流の取組みをしている。

・さまざまな人や場所がつながっていくことが重要。地域全体が関わり合いながらネットワークを広げる必要があると思う。

【Cグループ】

① 社会資源の周知について

・アクト地区はイベントごとに缶バッジを作っている。共通の缶バッジを持ち、通行手形とするのは良いと思う。活動を知ること、仲間意識を促すことにつながる。

・シニアクラブこそ連絡がとりづらい。ガラケー所持者が多く、紙での伝達がメインだが、それでも大変。掲示板に張っても見ていかないため、直接配っている。LINEグループなら伝達が早いですが、会員にはメールを打てない人もいます。

・広報物を印刷するのも大変。掲示板があっても、どこまで足を運んで見られているかは不明。

・市の天竜木材のベンチが会館前に設置されていて、日のあたる時間に女性が

集まっている。今ある集まりを活用したい。

- ・紙での回覧、掲示で活動の広報をしている。周知はできていると思うが、集まるのは定例の人ばかり。7:3で女性が多い。女性同士声を掛け合って参加していて、地域のつながりがあると思う。男性はつながりをもつことができていないと感じる。一回でも参加してもらって次の参加につなげたい。

② 地域のネットワークづくりについて

- ・地域資源があるが、ばらばらだと感じられる。紙媒体ではなく、団体がお互いを知り、交流ができる物やイベントが大事だと思う。
- ・中部協働センターの輪投げのように世代を超えた枠を超えた交流が大事だと思う。若い世代はボランティアの担い手にもなる。
- ・他のエリアの活動を知ったり、見学したりすることはできるのではないかな。

【Dグループ】

① 社会資源の周知について

- ・サロンやシニアクラブが情報交換の場になっていて、サロンから相談につながるケースがある。
- ・地区社協サロン代表者会議で補助金や活動内容の情報を共有している。
- ・社会資源の情報は、代表者や自治会オブザーバーを通じて広がっているように感じる。
- ・顔が見えないと関係づくりや情報共有が進みにくい。LINEなど便利な手段もあるが、対面での関わりも重要だと感じられる。情報発信は状況によって手段を分ける必要があると思う。
- ・地域によっては住民が少なく情報自体が少ない。

② 地域のネットワークづくりについて

- ・マンション住民はつながりづくりが難しく、連絡も取りにくいという課題がある。防災訓練など地域活動への参加が少ない。人と関わりたくない層も一定数いる可能性がある。キーマン（役員）を通じた関係づくりが重要だと思う。
- ・民生委員の活動でも、継続的につながりをもつことが難しい。民生委員の担い手不足も課題であり、地域全体として担い手確保が必要。
- ・区画整理により地域のつながりが弱まっている。以前あった老人会がなくなっているなど、交流の場が減少している。
- ・サロンなど気軽に話せる交流の場の必要性が高いと思う。
- ・参加者としては、活動に参加してよいか分からず、関わりづくりのハードルがある。

5. 年度替わりによる所属や役職の変更について

6. その他

- ・2月21日(土)開催「これからちまたパーティ」について

7. 閉会 板屋圏域生活支援体制づくり協議体副会長

5 今後の見通し・
必要な対応

① 地域活動の周知について

地域の情報については、自然なかたちで人が集まるラジオ体操やサロンを通じて共有されているが、マンション住民や子育て世帯等に対しては効果的な周知方法が異なるため、地域性や対象者、現在の活動状況に応じて方法を工夫する必要がある。
⇒地域ごとの特性を把握し、住民同士のつながりを生かした情報発信をしていく。
また、地域の代表者が集まる協議体会議では、互いの活動を知る仕掛けづくりとして楽しさや参加しやすさを取り入れたスタンプラリー、仲間意識・つながりが生まれる缶バッジ作成を検討。

② 地域のネットワーク構築について

地域全体で支え合うネットワークの強化のために、多様な主体が関わる場をつくる必要がある。また、参加への心理的なハードルを下げる工夫が求められる。

⇒多様な主体が関わる場、仕組みづくりの例として以下を検討

(1)地域のシニアクラブ、サロンにて、参加者の関心のあるトピックをテーマに専門機関・団体にお話をさせていただく（出前講座開催）

(2)世代を超えたつながりづくりを目指す、多世代が関わる地域交流イベントの開催

(3)誰もが気軽に交流できる新規サロン立上げや互いのサロン見学する機会づくり